

わかば通信

児童レファレンスの実際

～岩手県立図書館の場合～

最近、調べ物をするために図書館に来館する子どもたちをよく見かけます。学校での調べ学習の授業を通して、「調べ物をする場としての図書館」のイメージが子どもたちの間にも浸透してきているのでしょうか。

コミュニケーションが決め手

子どもたちの多くは、学校で大まかなテーマだけ与えられて、具体的なことは何も決められないまま図書館に来ます。決まっていたとしても、大人のようにそれをうまく言葉にはできないものです。

実際、漠然としたイメージしか持たないまま、OPAC(蔵書検索機)にかじりついている子がいますが、そういう子には、こちらから積極的に声をかけるようにしています。

司書		「何か調べているのかな？手伝いましょうか？」
子ども		「パソコンに“パン”って入れたんだけど、いっぱいあってどれがいいかわからないよ」
		「そうね。それにこれはほとんどお料理の本ね。パンの作り方が知りたいの？」
		「うーん、最初のパンとか、いつ日本に来たのかとか…」
		「それじゃあ、もののはじまりについて書いている本を本棚でいっしょに探してみませんか」
		「うん」

このように、会話しているうちに「思いつき」が形になっていくこともあります。調べている途中で、その子が本当に知りたいことを私達が理解していなかった事に気づいてはとすると…ということがぐれぐれもないように、コミュニケーションをゆっくりじっくりと取る必要があると実感しています。会話をするなかで、徐々に子どもたちが知りたい事柄の具体的なイメージをつかんでいきたいものです。

調べ方は多種多様

右の3つの方法が主な調べ方です。3つのなかのどれに重点を置くかは、調べる内容によって異なりますが、多くの場合、3つの調査方法を組み合わせて対応しています。

子どもたちが調べ方のコツを覚えて、自分で調べることの楽しさや喜びを感じてくれるように、自分で調べられるように導いていくことも大切だと考えています。

分類で探す

適切と思われる分野の棚をしてみる。分類順に並んでいる本を実際に見ることで、具体的なテーマや調べ方の方向性が見えてくることも。

OPAC(蔵書検索機)で探す

探している本のタイトルや著者名がはっきり分かっている場合に使うと便利。

参考図書で調べる

索引は調査をする際の足がかりにもなる。調べたいキーワードの近くに、そのキーワードに関連している新たなキーワードを発見することも。

環境.....	39
環境汚染.....	40
公害	
環境基本法.....	41
公害対策基本法	
大気汚染	
環境省.....	41

環境の...何について調べよう？

そうだ！大気汚染にしよう！

この冬多かったレファレンスBEST3！

1位 雪の結晶の形



2位 十二支の由来



3位 おせち料理の意味



本が足りない！ そんな時は県立へ！

宿題だと言って、どの子もみんな同じ事を聞いてくることがよくありますよね？それに自館の資料だけで対応するのは難しいもの。そんな時は、県立図書館のことを思い出してください。協力貸出大歓迎です！